

第2章 宝塚市の現状

本章では、市域の現状を示します。

2.1 本市の地域特性

2.1.1 自然的特性

本市は、兵庫県の南東部に位置し、市域は面積 101.89km²、東西に 12.8km、南北に 21.1km と南北に細長く伸びた形状をしており、海拔は最高 571.4m、最低 19.1m です。

市域は、南部地域と北部地域に分けることができます。南部地域はさらに、南部平坦部地域、南部山麓地域、南部周辺地域の 3 つの地域に分けられます。南部平坦部地域及び南部山麓地域は市街化が進み、人口が集中する地域で、市街地には緑地として公園や社寺林が点在しています。南部地域には南部平坦地域と南部山麓地域を二分するように二級河川の武庫川が流れています。南部周辺地域は、長尾山系と六甲山系から成る市街地近郊のまとまった自然緑地が残されています。北部地域は、高さ 350m 前後の山並みに囲まれた自然豊かな農村地域となっています。

本市の気候は、瀬戸内型気候に属し、2013 年度（平成 25 年度）の状況を見ると、年平均気温は 15.6℃、月平均気温は最低 4.0℃、最高 28.8℃ です。年間降水量は 1,414.5mm、年間晴天日数は 200 日以上と年間を通じて比較的温和で晴天の日が多く、平均風速は 2.1m と穏やかです。北部地域は、南部地域よりもやや寒暖の差が大きく、大陸型の気候を帯びています。

本市の自然的特性を見ると、太陽光発電、太陽熱利用システムには適しており、バイオマスや小水力、地中熱利用の利用可能性もあります。一方で風力発電や地熱発電の大規模な利用にはあまり適していません。再生可能エネルギーの利用可能性については、土地利用状況や住居の種類も考慮して 4 章で詳細に検討します。



2.1.2 社会的特性

(1) 人口、世帯数の状況

本市の推計人口は 2011（平成 23）年 4 月 1 日時点で、225,901 人（男 105,346 人、女 120,555 人）、世帯数は 92,213 戸です（表 2-1 参照）。

市制施行以来、増加しつづけてきた本市の人口は、1995 年度（平成 7 年度）には震災の影響を受けて一時減少しましたが、1996 年度（平成 8 年度）以降は、再び増加傾向を示しています。世帯数についても人口の推移と同様の傾向を示しています。

表2-1 本市の人口総数、世帯数（2011年(平成23年)）

人口総数	男	女	世帯総数
225,901	105,346	120,555	92,213

出典:宝塚市統計書「人口動態」(2011年(平成23年))

(2) 産業・業務の状況

本市の事業所数と従業者数をみると、第1次産業が農業のみであり全体としての割合は少なく、残りの大部分を製造業などの第2次産業とサービス業などの第3次産業が占めています。製造業は製品出荷額や事業所の減少傾向が続いており、近年の全国的な製造業の傾向と同様に、景気悪化などによる購買意欲の低下、生産品の減少、業績不振に伴う事業所の閉鎖・撤退などが影響しているものと考えられます。業務部門は、業務系建物の延床面積の推移を見ると、1990年度（平成2年度）以降増加しており、2011年度（平成23年度）は1,315,195m²となっています。

(3) 交通の状況

本市では公共交通機関として、鉄道とバスが整備されています。鉄道は、南部地域を中心に阪急宝塚線、JR福知山線が東西に、また、阪急今津線が六甲山系の山裾に沿うように南北に走っており、主要な駅を拠点に阪急バス、阪神バス、阪急田園バスの路線が広がっています。

自動車交通については、主要幹線道路が南北で発達しています。南部地域には中国自動車道と国道176号線が並行して走っており、京阪神と中国地方、山陰地方、但馬地方を結んでいます。これらの主要道路を中心に県道や市道などが発達し、市内の主要な道路を形成しています。市域の自動車登録台数は増加傾向にありましたが、2007年（平成19年）から2011年（平成23年）にかけてほぼ横ばいの状況が続いています。北部地域や南部地域の山麓部では、市街地への交通手段は、自動車がない市民にとってはバスが中心となっています。



2.2 エネルギー利用の特性

2.2.1 2011年度のエネルギー消費量

「宝塚市地球温暖化対策実行計画」において、温室効果ガス排出量の推計に用いているデータと算出方法を参考に、2011年度（平成23年度）の部門の項目ごとのエネルギー消費量を図2-1に示しました。本市のエネルギー消費量は全体で9,136TJ（テラジュール⇒用語集）であり、本市では、家庭や業務部門、運輸（主に自動車）におけるエネルギー消費量が多いことを示しています。

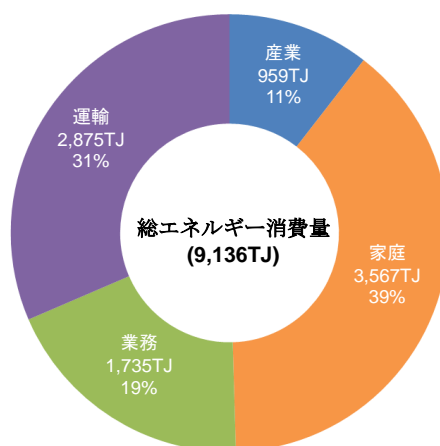


図2-1 部門ごとのエネルギー消費量の内訳（2011年度）

2.2.2 2011年度の電力消費量

本市のエネルギー消費量9,136TJのうち、電力消費量は2,916TJ（=810GWh：ギガワット時⇒用語集）と約32%を占めます。図2-2は、本市の電力消費量を部門の項目ごとに示しました。本市では電力消費量810GWhのうち、83%にあたる678GWhを家庭と業務部門が占め、特に家庭における電力消費量が多いことを示しています。

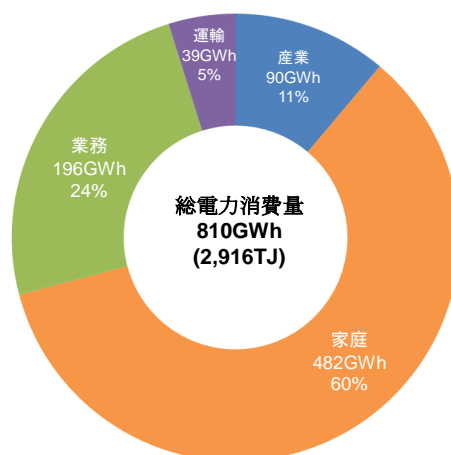


図2-2 部門ごとの電力消費量の内訳（2011年）

2.3 本市の再生可能エネルギー関連施策と取組

本市における環境施策は総合計画を最上位に、環境基本計画、地球温暖化対策実行計画を策定しており、市民、事業者、市の各主体が一体となり、地球温暖化対策を推進することを定めています。また、同実行計画基本施策に「エネルギー源として永続的に利用することができる再生可能エネルギーの利用促進」を定めており、具体的対策では「地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入促進」を掲げています。

東日本大震災における福島第一原子力発電所の事故や昨今の温暖化現象を受け、本市としては原子力や化石燃料に依存しないまちづくりを行うための要請や呼びかけを電力事業者や関係省庁大臣、県内各首長に行うとともに、地方公共団体として主体的に再生可能エネルギーの導入に取り組んでいくため、2012年（平成24年）4月に環境部に新エネルギー推進課を設置しました。その後、市民や事業者、非営利活動団体（NPO⇒用語集）などと再生可能エネルギーの具体的な導入を協働で進めるため、普及啓発事業を通して人づくりや場づくりを行い、研究会議や審議会を通して仕組みづくりを行うこととしました。また、地域ごとの特性に合わせた再生可能エネルギーの利用の推進や安全・安心なまちづくり、地域経済の活性化など本市の自然的特性や社会的課題を考慮した地域公益性のある取組を図っていくための再生可能エネルギー推進の考え方の整理を行うこととしました。

2012年度（平成24年度）からは再生可能エネルギーについてのセミナーや懇談会を実施し、のべ900人以上の参加を得ています。

また、2013年度（平成25年度）には宝塚市再生可能エネルギー推進審議会を立ち上げ、本ビジョンの検討や宝塚市再生可能エネルギーの利用の推進に関する基本条例の検討を行いました。また、再生可能エネルギーに関する事業推進のための宝塚市再生可能エネルギー基金を創設し、今後のモデル事業などに活用する予定です。

再生可能エネルギーについての懇談会をきっかけとして市民による取組が進んでおり、市民と再生可能エネルギー事業者による市民共同太陽光発電所の設置が行われています。



再生可能エネルギーをみんなで考える懇談会（市立西公民館）